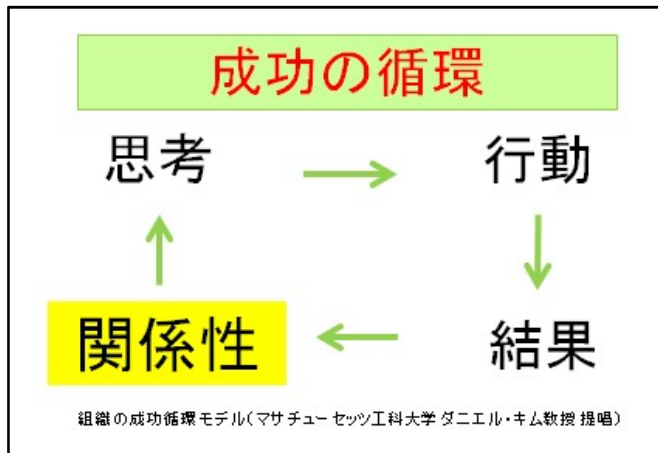


「毒を吐くな」

2024・9・12 校長 重枝一郎



私は、さまざまな所で、「成功の循環」の話をよくします。左図のことで

す。「関係性の質(仲良くする・認め合う)」が高まれば、「思考の質(いろいろな考えを手に入れる)」が高まり、「思考の質」が高まれば、「行動の質(チャレンジする積極性)」が高まる。「行動」が積極的になれば、「結果」を得られる。この「結果」とは、成功でも失敗でもない、経験を手に入れるということです。

学力向上も、部活での結果も、まずは「関係性の質」を高めることから始まります。そこから、学習・学校生活の満足度が高まっていきます。

つまり、「結果」を出すためには、集団における「関係性の質」がとても大切になります。「受験は団体戦」という言葉もその根拠から言われることです。そこで、今回は、「関係性の質」を高めるために、「毒を吐くな」という話をします。

教室をイメージしてください。そもそも教室は、「閉鎖空間」であることを認識しましょう。「閉鎖空間」は、実は何もしないでストレスが高まるのです。窓がないような狭い空間にいることを想像しただけでもわかると思います。では、そのいるだけでもストレスのかかる閉鎖空間の教室で、例えば、誰か一人が、誰かの悪口を言ったとします。これを「毒を吐く」と言います。閉鎖空間なのですから、当然、毒は少しずつ教室内を充満していきます。その悪口に、また別の誰かが反応して、重ねて毒を吐いたとします。この連鎖で、教室内は、毒で充満されていきます。つまり、毒を吸うと、毒を吐くのです。しかし、中には、毒を吸うことしかできない人もいます。その人は、ここでは勉強できない、ここでは生活できないということになるのです。

では、最初に毒を吐いた人に問います。毒を吐けない仲間に対して、責任がとれますか？結論は、とれません。だから、「毒を吐くな」ということなのです。でも、毒を吐かないでも、閉鎖空間ではストレスはたまります。そのストレスをなくすためのものが必要だということです。これが、「心理的酸素」なのです。この「心理的酸素」について考えてみましょう。どんな具体的な言動になるのでしょうか。おそらく、「おはよう」「ありがとう」「ごめんね」「大丈夫？」・・・こんな言葉が「心理的酸素」になるのではないかと思います。

みなさんは、何のために勉強をしているのでしょうか。また、毎朝の礼拝は何のためにしているのでしょうか。部活動もそうです。はないちの活動もそうです。それは、すべて「自他の幸せを考える」時間なのです。本質的には、その時間なのです。

だから、私は、「自分よし・相手よし・みんなよし」というパワーフレーズを発信しています。この言葉を、学校生活の中で、何回も何回も自分の体の中を通してほしいと思っています。

この「関係性の質」を高めていくと、学力向上はもちろんのこと、一度きりの人生においての宝物を必ず手に入れることができます。みなさんは、その宝物を誰かに与え合うことができる存在になるのです。